

参院選★福土ますみさん、見事に当選！ 青森県内国会議員は自民を上回る 4 名となりました

第27回参院選挙の投開票が7月20日に行われ、青森県選挙区では立憲民主党公認で新人の福土ますみ候補が自民党の現職を破り、初当選を果たしました。

当選確実の報を受けた福土候補は、支援者に深く頭を下げ、「本当に皆さんのおかげ。現場での『頑張れ』の声、笑顔が、どれだけ力になったかわかりません」と感謝の気持ちを述べました。

そして、「ここからがスタートです」と決意を語り、「報道記者としての経験と、課題を捉える力、寄り添う力が自分の強み。これまで以上に地域の声に丁寧に耳を傾け、それを政策に反映させていきたい」と力を込めました。

この結果、県内選挙区で選出の国会議員は立憲民主党は田名部匡代さん、岡田華子さん、升田世喜男さんの3名に加えて計4名となり、自民党3名（津島、神田、江渡）を上回ることとなりました。4名の方が、力を合わせて本県を日本一住みよい県にしてくれることを期待します。



青森選挙区開票結果						選管最終、敬称略	
当214,613	福士	珠美60	立民・新	=社民推薦			
197,966	滝沢	求66	自民・現	=公明推薦			
91,083	加藤	勉65	参政・新				
32,317	荻野	優子33	共産・新				
8,837	佐々木	晃53	諸派・新				
▷有権者数		1,028,060人		▷投票率		54.22%	



全国では自公政権を過半数割れに追い込むも 立憲民主党は改選前から拡大できず厳しい総括が必要です

立憲民主党は比例代表での得票数は約 740 万票にとどまり、政党別では自民、国民民主、参政に次ぐ4位に後退しました。改選前と同じ 22 議席を維持したものの、他党が議席を伸ばす中で、事実上の敗北との声も党内から出ています。

野田代表は「比例選の伸び悩みは厳しく総括しなければならない、現政権への批判票が他党に流れた点が大きな反省」と述べ、無党派層への訴求力不足を認めました。

背景にある課題としては①政策の訴求力が弱く、具体性や財源の説明が不十分だったこと、②組織の

硬直化やリーダーシップの課題、若手候補の登用不足も影響、③ネット戦略や SNS 活用が他党に比べて遅れていた点、などが挙げられるのではないのでしょうか。

今後の展望としては、次期衆院選に向けて全国幹事長会議などを開催し、選挙結果を総括する方針を示しています。また野党連携の主導権を維持できるかどうか、課題となっています。そうした意味でも今回の選挙結果は、立憲民主党にとって変革の契機とも言えそうです。

※次ページに県内や地域の数値を掲載

福士候補、前回の田名部匡代さんの獲得票には及びませんでした

青森選挙区で初当選した福士候補ですが下北地域では田名部匡代氏が獲得した票には約 4,000 票には及びませんでした。初選挙であることや 12 年ぶりに共産党から立候補があったことを考慮すれば一定

の評価はできると考えます。また比例区選挙では立憲民主党が前回、前々回を上回ることが出来ました。みなさんのご支援に心よりお礼申し上げます。以下に下北地域の得票状況を掲載しました。

《今回、過去 2 回の参院選・青森選挙区の地区別得票状況》

党 派	立憲民主党			自由民主党			その他		
選挙年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年	2025年	2022年	2019年
候補者	福士珠美	田名部匡代	小田切達	滝沢求	斎藤直飛人	滝沢求	参・共・N	参・N	N
む つ	8,555	11,536	8,388	9,519	11,360	12,464	6,548	1,197	1,163
大 間	664	934	594	812	912	962	407	72	74
東 通	850	1,299	773	1,229	1,268	1,640	604	102	113
風間浦	369	563	387	379	367	478	124	23	30
佐 井	324	468	352	365	371	471	137	28	26
下北計	10,762	14,800	10,494	12,304	14,278	16,015	7,820	1,422	1,406
県内計	214,613	277,009	206,582	197,966	216,265	239,757	132,237	24,942	19,310

《今回、過去 2 回の参院選比例区の地区別得票状況/上位 10 政党分》

自治体	選挙年	自民	立憲民主	参政	国民民主	公明	れいわ	共産	日本保守	日本維新	社民
む つ	2025年	8,284	4,222	2,792	2,220	1,770	1,648	1,209	822	506	355
	2022年	11,230	4,060	466	1,079	2,137	861	1,240	***	1,227	628
	2019年	10,239	4,100	***	1,333	2,094	566	1,626	***	766	467
大 間	2025年	691	323	161	205	165	138	59	40	24	45
	2022年	828	321	33	103	296	42	53	***	42	74
	2019年	726	269	***	123	228	29	80	***	42	84
東 通	2025年	1,015	396	243	322	214	151	103	57	38	17
	2022年	1,318	382	40	252	302	54	54	***	58	37
	2019年	1,271	321	***	333	294	36	78	***	60	31
風間浦	2025年	369	186	56	54	78	35	27	17	2	17
	2022年	425	219	7	28	101	20	29	***	23	22
	2019年	418	164	***	48	125	16	34	***	15	23
佐 井	2025年	277	177	63	48	81	44	35	12	10	22
	2022年	394	164	19	17	92	27	23	***	19	35
	2019年	383	152	***	62	94	14	40	***	17	33
下北計	2025年	10,636	5,304	3,315	2,849	2,308	2,016	1,433	948	580	456
	2022年	14,195	5,146	565	1,479	2,928	1,004	1,399	***	1,369	796
	2019年	13,037	5,006	***	1,899	2,835	661	1,858	***	900	638
県内計	2025年	156,322	104,343	61,156	52,538	40,116	39,596	29,336	18,406	11,799	9,070
	2022年	212,008	94,348	11,586	22,480	52,363	18,640	29,974	***	27,266	14,311
	2019年	181,603	100,239	***	33,043	51,501	14,747	37,915	***	15,529	10,761

《今回の参院選比例区・連合推薦候補者別得票数》

党 派	候 補 者	出 身 労 組	当 落	全国合計	青森県計	下 北 計	む つ	大 間	東 通	風 間 浦	佐 井
立憲民主	岸 真紀子	自 治 労 当		147,648	1,152	86	41	22	4	19	0
	吉川 沙織	NTT 労 組 当		116,314	1,410	52	48	2	2	0	0
	水岡 俊一	日 教 組 当		116,142	141	4	2	2	0	0	0
	小澤 雅仁	JP 労 組 当		99,963	1,649	142	120	7	7	4	4
	郡山 玲	JAM 当		94,610	230	3	2	0	1	0	0
	森屋 隆	私 鉄 総 連 落		74,495	981	121	105	1	1	5	9
国民民主	田村 麻美	U A ゼンセン 当		205,331	3,035	157	145	1	7	2	2
	浜野 喜史	電 力 総 連 当		193,599	4,465	292	280	1	7	2	2
	磯崎 哲史	自動車総連 当		181,976	525	20	19	0	1	0	0
	平戸 航太	電 機 連 合 当		92,137	241	4	4	0	0	0	0

むつ中間貯蔵施設 使用済み核燃料搬入計画

1～4号機を除く福島原発分も搬入予定としています

東京電力の小早川社長や日本原子力発電の村松社長らが7月7日、青森県庁を訪れ、施設への中長期の搬入計画と施設からの搬出計画を示しました。

東京電力が示した計画によると、2033年に貯蔵する燃料が年間で200トンを超え、40年代初頭には1棟目が満杯になり、同時期に2棟目への搬入を開始するとしています。1、2棟合計で4,000～4,500トンとしています。（下表参照）

東京電力は、この計画で使用済み核燃料を搬出する原発を「少なくとも3基が稼働する」と想定。昨年燃料を搬出した柏崎刈羽原発や着工した東通原発を見込んでいます。また、廃止措置が検討されている福島原発からも持ち込むとする計画です。この福島原発からの搬入については昨年の安全協定締結時点では東京電力は「福島原発廃止措置工程全体の中で検討していく」として搬入を明確にしていなかった。しかし、この廃止措置工程がどのように検討され、どう結論付けられたのか全く不明のままです。また、廃炉となる福島原発の使用済み核燃料を何のために再処理するのでしょうか、再処理されて生成されるMOX燃料はあくまで発生させた電力会社で利用することが定められています。MOX燃料を使用するいわゆるプルサーマル発電は東京電力ではその計画すら出来ていない状況です。

また、日本原電は東海第二原発（茨城県）と敦賀原発（福井県）からの搬出を想定しています。こちらについても再稼働はメドが全く立っていません。

むつ中間貯蔵施設はあくまで再処理するための一時貯蔵施設です。しかし、再利用の方策が検討されていない現在、当地に搬入することは中間貯蔵施設の本質を考えるなら、あってはならないことです。さらなる搬入は中断し、立ち止まって考えることこそが必要と思われます。

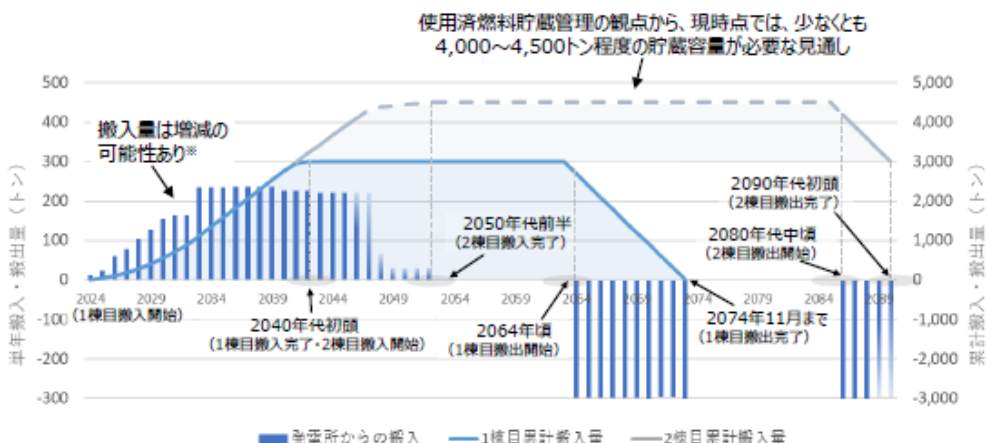
いずれも貯蔵施設からの搬出先は来年度末の完成を目指す日本原燃の再処理工場を想定。1棟目からの搬出開始は2064年頃で約10年で完了を見込んでいます。しかし、再処理工場の稼働時期など不透明な部分があるため、東電担当者は「計画には変動性や不確実性がある」としています。

事業者から報告を受けた宮下知事はその後の取材で中長期計画が示されたことについて「一定の答えになった」と評価しています。そして事業者はむつ市役所も訪れ、山本知也市長らに計画を説明しました。山本市長は貯蔵容量が5,000トンに満たない計画であることや、2棟目の建設計画が明示されていないことなどを指摘するなど原子力マネーの目論見に終始するスタンスと報じられています。

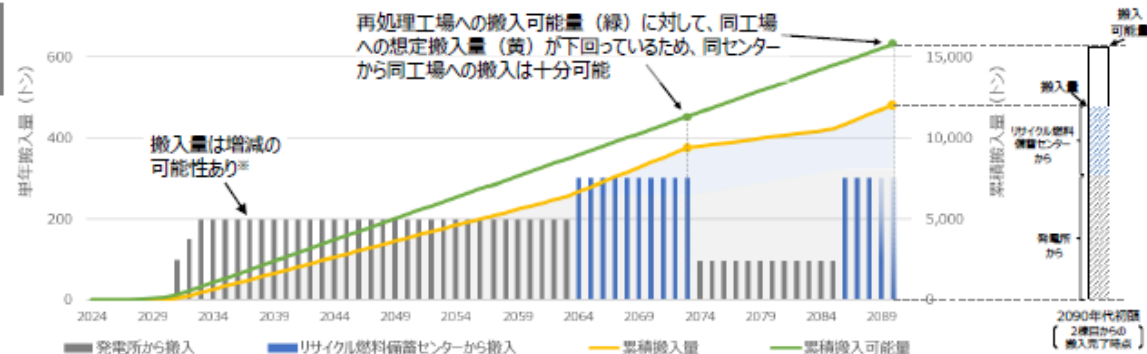
RFSに関する中長期搬入・搬出計画（複数検討のうちの一つ）

東京電力作成資料

RFSリサイクル燃料 備蓄センターへの 搬入・搬出



日本原燃再処理 工場への搬入



第 17 回大間原発反対集会が開催されました

2008 年 5 月に電源開発(株)によって建設工事がスタートした大間原発ですが、その年から始めた大間原発反対現地集会是並行して行われる「大 AGROCK」コンサートと共に本年は 17 回を数えました。

本年は 7 月 27 日、「大間原発に反対する地主の会・所有地」に 200 名の参加者の元に前日から開催された「大 MAGROCK」と共に開かれました。むつ市からも 7 名が参加しました。

東日本大震災以降、工事が止まっている大間原発は日本の核燃料サイクルの要として位置づけられている原発です。

六ヶ所再処理工場で分離したプルトニウムを消費するためにあえて、コストが高く、危険性も高く、さらに事故時の被害も大きくなるフル MOX 原発と呼ばれる極めて危険な原発です。

その六ヶ所再処理工場は 1993 年に建設を開始し、1997 年には竣工予定でしたが、27 回の延期を

繰り返しています。現在は 2026 年度末を竣工予定としていますが実際にどうなるかは未知数です。当初の計画では建設費は 7,600 億円と見積もっていましたが、その後、計画遅延、見直しに伴い 3 兆 7,400 億円へとおよそ 5 倍になりました。総事業費では現在 15 兆 6,200 億円まで膨れ上がっています。こうした費用は電気料金に含まれて請求されてきました。六ヶ所再処理工場では年間 800 トンの使用済み燃料を再処理し、7 トンのプルトニウムを分離します。

このプルトニウムは核兵器にも転用できるため、日本は分離したプルトニウムを消費していく義務があります。その消費の大きなカギが稼働すればプルトニウムを年間約 1.7 トン消費する大間原発なのです。国策が生み出したこの原発を止め続けることは、日本の原子力政策に間違いなく大きな影響を与えることになります。



連帯のあいさつをする今村修さん

プルトニウムを含んだ MOX 燃料を使う原発として、J パワー（電源開発）が大間町で建設を進めている大間原発に対し、反核を訴えるロックフェスティバル「大 MAGROCK（マグロック）」と「大間原発反対

現地集会」が開かれた。26、27 日にあったフェスには 2 日間で約 260 人、27 日の集会とデモには 120 人が参加した（いずれも主催者発表）。フェスと集会は、国が大間原発の建設を許可した 2008 年から始ま

原発反対と反核 大間で叫ぶ

ロックフェスとデモ



大間原発に隣接する、反対地主の会の所有地で開かれた音楽フェスと建設反対集会＝大間町



り、今回で 17 回目。原発敷地に隣接する「大間原発に反対する地主の会」の所有地に参加者が集まった。主催者らによる「世界を見てもこんなのないぜ、民家の隣にフル MOX」「再処理、原発、中間貯蔵、東京につくれば便利だろ」といったコールに合わせて、賛同の声をあげていた。また、原発建設の用地買収に 1 人反対した故熊谷あさ子さんと、娘の厚子さんが、原発の炉心から 250 メートル離れた場所に建てたログハウス「あさこはうす」では、はうすを維持するためのバザーやカンパも行われていた。（鶴沼照都）



7/28 朝日新聞



原子力半島の元凶 原子力船むつの終焉

原子力船「むつ」から1997年に生まれ変わった海洋研究開発機構の海洋地球研究船「みらい」が12月の退役を前に7月24日、むつ市関根浜港から北極海の研究航海へ旅立ちました。

下北半島を原子力半島へ位置付ける契機となった原子力船「むつ」が数奇な運命の末の名実共に引退します。陸奥湾内での出力試験計画で漁民の猛反発を受け、太平洋での出力試験へ強行出港し放射線漏れ事故を起こしてから51年、「政治力船」とたたかれた船の終焉です。

報道によれば、1995年に原子力船としての役割を終えた最後の乗組員の一人は「船乗りは乗っているが全然別のところで動かされてきた。本当に船だったのは実験航海のわずか1年だけ。後の25年は半身不随」と悔やんだと伝えています。

来年11月に後継船の北極域研究船「みらいⅡ」が完成、母港は同じ関根浜港となる計画です。

海洋研究船「みらい」最後の出港

むつの母港で見送られ



みらいを見送る地元関係者ら。24日、むつ市

本年度で運用を終える海洋研究開発機構（JAMSTEC）の海洋地球研究船「みらい」は24日、母港のむつ市関根浜港を出港し、最後の北極航海へ向かった。岸壁には関係者ら約100人が集まり、地元を旅立つ最後の姿を見送った。

みらいは国内初の原子力船「むつ」が前身。放射能漏れ事故後、原子炉を撤去し、ディーゼル機関を搭載するなど大幅改造され、1997年に研究船として生まれ変わった。優れた耐水性で、JAMSTECの研究船ではできなかった北極航海を行い、温暖化の影響などを観測。航海は250回を超え、総航走距離は地球約58周分に当たる約230万キロに及ぶ。老朽化に伴い、建造中の北極域研究船「みらいⅡ」に役割を引き継ぐ。みらいは35人の乗組者を乗せ、午後4時に離岸。岸壁では市民や同僚らが「ありがとう みらい」と書かれた横断幕を掲げ、これまでの活躍をねぎらうなどして、手を振り見送った。JAMSTECむつ研究所の佐々木建一所長は「みらいは世界に誇れる船。たくさんの人に送ってもらえてうれしい。みらいⅡも地元の人に支えてもらいたい」と述べた。

みらいは北太平洋や北極海などを観測後、千島海溝と日本海溝の調査を最後に活動を終える予定。（佐藤航）

◀◀◀大湊高校、むつ工業高校の統合校問題▶▶▶

むつ工業高校の改修活用と2027年度開校が実質的に決まる

7月28日に開催された住民説明会で県教委は「開校時期を先延ばして学級減で対応した場合、大湊高、むつ工の小規模化が進み、両校の教育活動に支障が生じる懸念がある」などと説明。ほとんど異論が出なかつとして開校スケジュールなどを確定しました。

折衷案で整備、27年度開校

下北統合校 県教委、むつ市に報告

高校再編

むつ市の大湊高校とむつ工業高校を統合して新設する「下北地区統合校」について、県教育委員会は2027年4月の開校と、むつ工既存校舎の改修・一部新校舎整備の折衷案で進める方針を7月31日付で決めた。1日、風張知子県教育長がむつ市役所を訪れ、山本知也市長らに報告した。

市側は阿部謙一教育長、富岡幸夫市議会議長、内田大輔むつ商工会議所会頭が同席した。風張教育長は「入札中止に伴い、ご心配をおかけした。3回の説明会を経て一定の理解を得たと考えている」と述べた。

山本市長は「地域の声が反映されたものと評価して

いる。協力は惜しまない」とした上で、「住民から開校時期を延期すべきなどの意見が出たのも事実。子どもたちが望む学びを確保できる校舎になるようお願いしたい」と語った。

市への報告後、風張教育長は報道陣から入札中止の受け止めを問われると、「ミスがあったとかであれば責任は感じるべきだとは思いますが、こちらのミスとしては受け止めていない」と話した。また、入札は知事部局の担当とした上で、「不調となることを想定して依頼していない」と話す場面もあった。

下北地区統合校を巡っては、27年4月開校予定でむつ工の敷地内に新校舎が整備される方針だったが、今年3月に入札不調となっていた。（畑山佳奈子）

「独立」の道 観光振興課題

第4部③大間町



ビスの低下を招く恐れがあった」と打ち明ける。

両村役場の支所化、役場職員の削減の少なくとも2点は避けられなかっただろうと推察する金澤氏。両村と異なり、当時の町は過疎地域に該当していなかったため「町単独で運営していける自信があり、町民のため産業振興などに取り組むとの訴えが（合併反対の）支持を得たと思う」と振り返る。さらに「合併して一つの自治体になっても、この地域全体が将来的に発展し続けられるか疑問だった」とも語る。

原子力規制委員会の新規制基準適合性審査は現在、一定の進展を見せているが完成や運転開始の時期は見通せない。大間原発が稼働していれば、町はそれに伴う固定資産税を得られる見込みだった。

教育を軸とした町づくりを推進した金澤氏は、町内の小中学生の台湾との交流事業などに充当することで「貴重な経験を積んだ子どもたちが大人になった時、町を支えてくれるような好循環につながる『教育への投資』を進めたかった」と振り返る。

国勢調査によると、00年10月時点の町人口は6566人だったが、20年10月時点では1848人減の4718人と5千人を割り込んだ。県内の他自治体同様に人口流出・少子高齢化が課題として浮かび上がる。

5月30日に開かれた大間町議会議員全員協議会。町の第3期総合計画を巡り、町側と町議が将来像について議論した。議員が「マグロだけに頼った観光ではいつか持たなくなる」「手土産すら買わない観光客も増えている」などと厳しい意見を次々と述べ、滞

本州最北端に位置する大間町で2006年4月、隣接する風間浦村、佐井村との合併の是非を問う、住民投票が行われた。有効投票数3548人のうち合併反対が2217人、賛成1331人。その差886票で町民の意志が導き出した答えは「独立」の道だった。下北の北通り3町村はその後の20年間、単独での行政運営を続けてきた。

津軽海峡に面する大間町は、漁業と観光業が主軸。中でも毎年1月に東京・豊洲市場（以前は築地）で行われる初競りでは14年連続で「一番マ

同年1月から大間町長を4期務めた金澤満春氏（75）は町単独での存続を掲げ、訴え続けた。合併した場合「行政区域の広域化」により住民サー

7/28 東奥日報

「マグロ頼みでは持たない」



複数の大間町議（左側）が観光振興策などを提言。人口推計の資料を基に、町の将来像を模索する議論が続く＝5月30日、大間町役場



かつてメインストリートと呼ばれた大間町中心部の商店街は大型連休期間も人通りはまばら。近くで商店を営む男性は「にぎわいはない」と嘆く＝4月30日

在型観光への転換、新たな観光資源開発の必要性を訴えた。

21年から町長となった野崎尚文氏は「減少する町人口の維持、教育・医療環境の整備について知恵を絞りに私に課された使命を果たしていく。台湾からの誘客強化を含め、町の振興のためあらゆる対策を考えたい」と語った。

（川越真也）

産業振興、人手確保課題

第4部④風間浦村、佐井村



大間町と隣接する風間浦村

や佐井村は、財政基盤の強化などを見据え同町との合併を望んだが、かなわなかった。両村は産業振興、人手不足といった積年の課題が重くのしかかっている。

「最近魚もイカも不漁が続く。子どもはめっぽう減った。商店も少ないから観光客も来ない。ここから発展する未来は想像できないね」。風間浦村の漁師からは、諦めにも似た言葉が口をついて出る。

2003年から村長を2期

務めた横濱力氏(72)は「村の財政状況を含め、単独より合併の方がスケールメリットを得られる」との思いが強かった」と回顧する。村政にとつて国からの地方交付税は大きな収入源。横濱氏は合併し広域団体を組織した方が効率的な運営ができ、単独村政より受けられる恩恵も大きい」との思いを抱いていた。

温泉郷がある下風呂地区でホテルを経営する横濱氏は、団体から個人という観光形態の変化を著しく感じていた。3町村合併を検討する法定協

議会を設置した05年当時、大間町や東通村の原子力発電所施設関連の工事作業員に村内のホテルや旅館を利用してもらうことで「原発の波及効果」を期待した。ただ思うように建設工事は進まず、観光の要である温泉郷は現在、施設の老朽化、経営者の高齢化が進み将来の存続が危ぶまれている。

村の東端・下風呂地区から山を隔て隣接するむつ市大畑町の中心部までは車で約20分。大間町中心部までの所要時間と差はほぼなく、同市を生活圏とする住民は少なくない。こうした地理特性から、風間浦村は3町村の合併協議を終了後、むつ市との広域合併を模索した。

だが09年6月、同市との広域合併を問う村民投票の結果は合併反対922票、賛成61票。252票差で村民は「合併反対」を選び、村の合併構想はついえた。横濱氏は「合併協議は複合的要因が絡み合うもの。村にとって合併した方が良かったのかどうか、こればかりは何とも言えない」と言葉を詰まらせた。

村は昨年12月、環境省が取り組む海洋生態系を活用した「ブルーカーボン」の重点調査地域に選ばれた。全国3地域のうちの1つで全国に先駆け脱炭素の事業化を目指す。17年から村政のかじ取り役を担う富岡宏村長は「海洋環境の変化への対策としてウニや海藻類の蓄養殖化で成果を上げ、漁業の安定収入につなげていきたい」と展望する。

広域連携の在り方模索

7/29 東奥日報

村は独自の取り組みとして、全国から漁業後継者を募り育成する「漁師縁組」事業を実施し、通算6人が村に移住した。合併議論当時、村長として合併推進を訴えた故・太田健一氏を父に持つ太田直樹・現村長は、同事業のほか赤十字の里づくり、脱炭素先行地域事業、牛滝小中学校の再開などを例に挙げ「小さい村だからこそ、実現できたことがある」と強調。「結果と

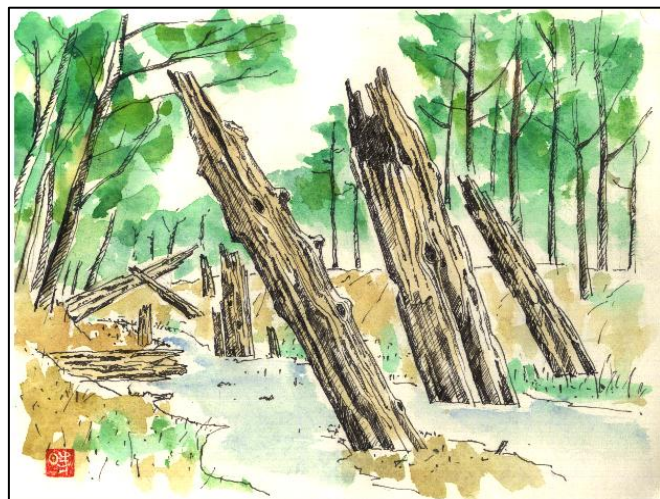
して合併しなかったが、今を見据えた村民の当時の議論は決して無駄ではなかった」と力説する。



合併構想が実現した風間浦村の役場（写真上）と佐井村の役場（同下）。産業振興、人手不足対策に知恵を絞る

※ むつ市については本紙4月号で紹介済です

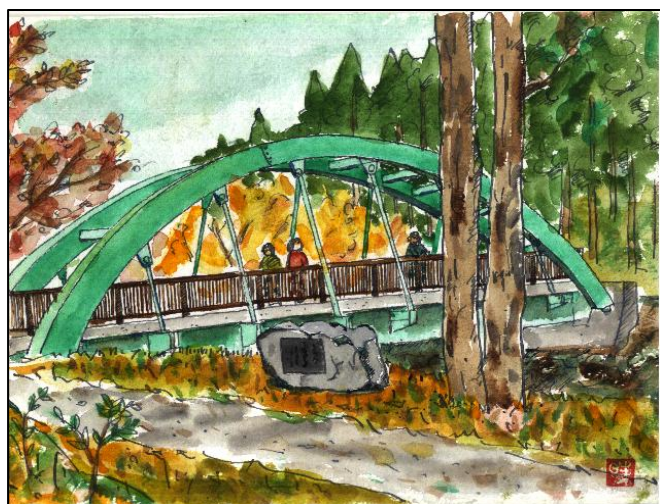
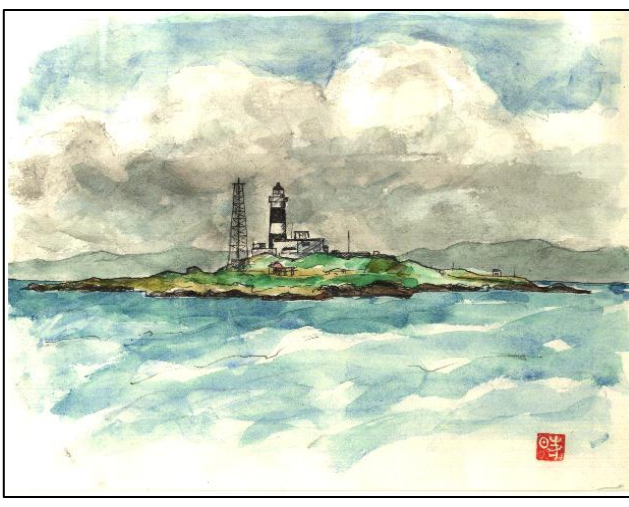
郷土の芸術家・菊池時男さんの水彩画からふるさとの風景を描いた数点をご紹介します



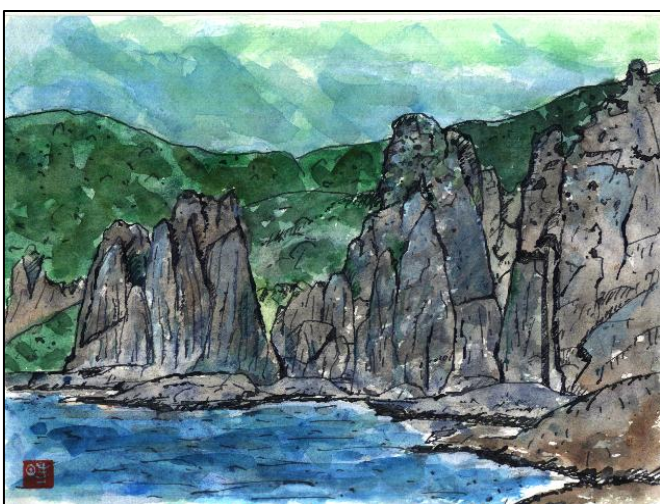
水源地公園アーチ式ダム（むつ市）
ヒバ埋没林（東通村猿ヶ森）



大間崎灯台（大間町）
鯛島（むつ市脇野沢）



願掛岩（佐井村）
鵜鴒橋と歌碑（むつ市川内）



恐山（むつ市）
仏ヶ浦（佐井村）



前回号でお知らせしたむつ市大湊在住の菊池時男さんの小型サイズの故郷の名勝地を描いた作品を2回に分けて掲載します。紙面の都合で今回は横構図の

み掲載しました。今回は縦構図をご紹介します。いずれも馴染みの深い誰もが知る風景です。ご本人の了解を得て画像ファイル化したものです。

《良尹王と宗尹王の対面》

下北半島は正三位民部卿源良尹王を迎えて民衆も喜び、活気を帯びてきた。南部信政の養女専子を迎えて娶り、信政はこれを大いに支援した。

この時の引出物として十符（野辺地）から音波（泊）、目名見

（白糠）、宇名井田（有戸）など鶴崎（城ヶ沢）に至る十二ヶ村を良尹王に献上した。さらに天津将監太郎を奉行に任じ、北部はいよいよ栄えて行く。当時の目名見城（白糠）らは、この十二ヶ村の奉行の居城であった。

やがて男子が生まれ、幼名乙寿丸は8歳で参内、尹義（ただよし）と命名されて正四位上刑部卿に任ぜられた。

しかし、南朝は日に日に衰えて行く（金閣寺を建てた三代将軍・足利義満の地位が強化され、権力集中してきた時代である）。南朝とは名ばかりで、いまとなつては新田義貞の子、義宗がただ一人頼りの長慶天皇は、弟宗尹を義宗に託した。5歳の幼い宗尹王を守つて、義宗は越後に下つて戦ったが敗れて西国に落ちて行く。

宗尹王は岩松貞徳ら数人に守られて九州に遁れようとしたが、強風に翻弄されて逆に北へ流され、秋田沖から北部福浦（佐井村）に着岸した。

この報に接した北部良尹王は、宗尹王が今上天皇の末の宮と知つて驚き、順法寺城で涙の対面をする。良尹王は南朝のため諸国の将兵を集めようとしたが、王はこの時すでに病にあり、意の如くにならぬまま37歳の若さで亡くなる。

長子尹義を2代北部王と決めたが、病身の尹義王は24歳で亡くなり、その一子、太郎丸を立てて3代の家督とした。

太郎丸は元服して順法寺太郎義

邦と号し、秋田城之介の娘を娶った。元中9年（1392）10月2日、南北朝の和睦が成立、皇位は北朝方の後小松帝に引き継がれたため、南朝方の北部王家は今後の対応に苦慮することになる。將軍足利義満は怨敵尊氏の孫で、北部王義邦が護良親王の孫と知ったら討ってくるかも知れぬ。太郎義邦の容姿は護良親王と寸分違わぬとあって家臣たちの心配は募った。

悩みが多かつたためか、義邦は応永25年（1418）7月23日46で世を去った。嫡男小太郎義純が4代北部王となる。

《北部四代義純王の繁栄》

4代義純王の頃、北部は金、銀、銅、鉄の山が19ヶ所、一日に黄金にして千斤（小判4万両相当）といわれる宝の山で繁昌した。外国との交易も異国間（風間浦村易国間）を中心に活気を呈していた。

このとき義純王はまだ無位無官であったので、朝廷から位を授けてもらおうと上洛する。時の將軍足利義景の拝謁を許された義純は、吉良親王の玄孫である旨を言上した。朝廷では義純を従五位上民部大輔に任じた上、北部王たることの証も賜わるなど、上首尾であった。

義純には北部の黄金がふんだんにある。そこで時の管領に野沢（東通村蒲野沢）から出た黄金千斤をワイロとして、公方家の姫を妻に迎えることを決めて帰ってきた。地元では大変な喜びだったが、ただ一人、重臣東條伊豆守泰邦は「怨敵足利尊氏の子孫に屈してまでも位を授り、更には嫁君まで乞うとはもつての他なり、速やかに破談されるよう」涙をもって諫言し、一命を捧げて自殺した。

義純は都からの姫君入輿に当り、京風の御殿を作ることを決めた。武田信純を大奉行として諸国

から名工、名品を集めて造営にとりかかった。世にこの御殿を「花御殿」と称した。現在の東通村下田屋の墓所から妙見神社（むつ市最花）に至る広大な土地が当時の花御殿だったといわれ、「東北太平記」には4,260軒が建つて一大繁華街になったとある。

秋9月、姫君入輿。婚礼の大礼は七日七夜に及ぶ遊宴で、都人の音楽の妙なる調べは民人にとっては初めて耳にするものであった。

この大事業の中心となった武田信純は建武の頃、国司北畠顯家の目代としてこの地にとどまった武田信義の子孫で、義純王の妹婿でもあった。

信純は蠣崎（川内町）錦帯城で奉行を勤め、二カ所の金山を配分されて蠣崎蔵人と号した。その威勢はいや高く、広く民衆の信望を集めていた。

《蠣崎蔵人信純の反逆》

北部の地は繁栄が続いていたが、都では將軍の身邊が次々と変わり、嘉吉3年（1443）9月には、一時皇居の三種神器が奪われるなどの事件が起っていた。

機を見ることに敏な奇才の蠣崎蔵人は、こうした動きに乗じて北部の地をわがものにしようと、逆心を起すに至る。順法寺了然和尚や峰最宝院（恐山）別当大諦法師と謀議し、最宝院大諦を都に出向かせて連絡をとるなど、ことを内密に運んでいた。

腹心の栗津兵庫、白糠武蔵を執事にして、「南朝の皇統を天地とともに伝えたい」と、ときどきにその一部を発表して民衆の心をつかんでいた。

その頃、北部王義純は打ち続く遊宴の疲れか、健康の優れない日が続いていた。頃も良しと、義純王のご機嫌伺いに出向いた蔵人は、花の御所を訪

ね「わが君には日頃何かとご多忙に過され、臣蔵人も気にかかっております。幸にわが蠣崎の浦で毎年のことながら5月25日にたくさん船が出て、海の祭りが催されます。何とぞ一度蠣崎の海へお越し賜りたく、われら主従心してお慰め申します」と、言葉巧みに誘った。

気分の優れない義純はこのほか喜んで「汝の配慮、常に感謝するところ」とばかり承諾する。

文永5年(1266)4月23日、蔵人自ら迎えに参上、義純王限りなく喜ばれ、ご嫡男太郎義元、二男次郎、孫姫環をはじめ主なる将兵を従え、24日朝、花の御所を出立、その夜は檜川弾正の館(川内町)、翌日蠣崎錦帯城に入られたのである。

「さらばこれより遊魚せんと色鮮かな唐錦の天幕を張りめぐらし、屋形船に義純王、太郎丸はじめ、お子、それに蔵人、赤星らの打乗

り、沖へと漕ぎだしたり。

数百艘の漁船みな各々に大漁旗をなびかせ、網を張り、縄を打つ様はまこと全てを忘れ喜び合う。

この時蔵人の腹臣山口六郎、長さ五尺もある大魚をとり、本日の高名なりと屋形船目掛けて乗りつけば、風も波も治り切っているというのに御座船メリメリと鳴り渡り、アレヨ、アレヨの声と共に溺れる人が続出する大騒ぎとなるもあわれなり。

かくて義純王は44歳を一期にむなしくなり、太郎義元22歳、次郎義久19歳、共にはかなくも逆賊の手に亡び、ここに南朝の系統は絶えた」のである。

皇孫をもって続いた北部王家は事実上断絶し、義純王の奥方も入水自殺して、40年の生涯を終った。

姑の入水をきいた太郎義元の奥方も一首を残して自殺、22歳の生涯であった。

『何にゆへに北部の里の苦を絶

えて 君ある方に行くぞ嬉しき』
こうして皇孫北部王の家督は蠣崎蔵人の意のままとなる。表面上は村松の御所に遁世された親王宗尹王を5代北部王に立て、自分は裏にあって同職の赤星一族に逆心ありとして討たせるなどして行く。

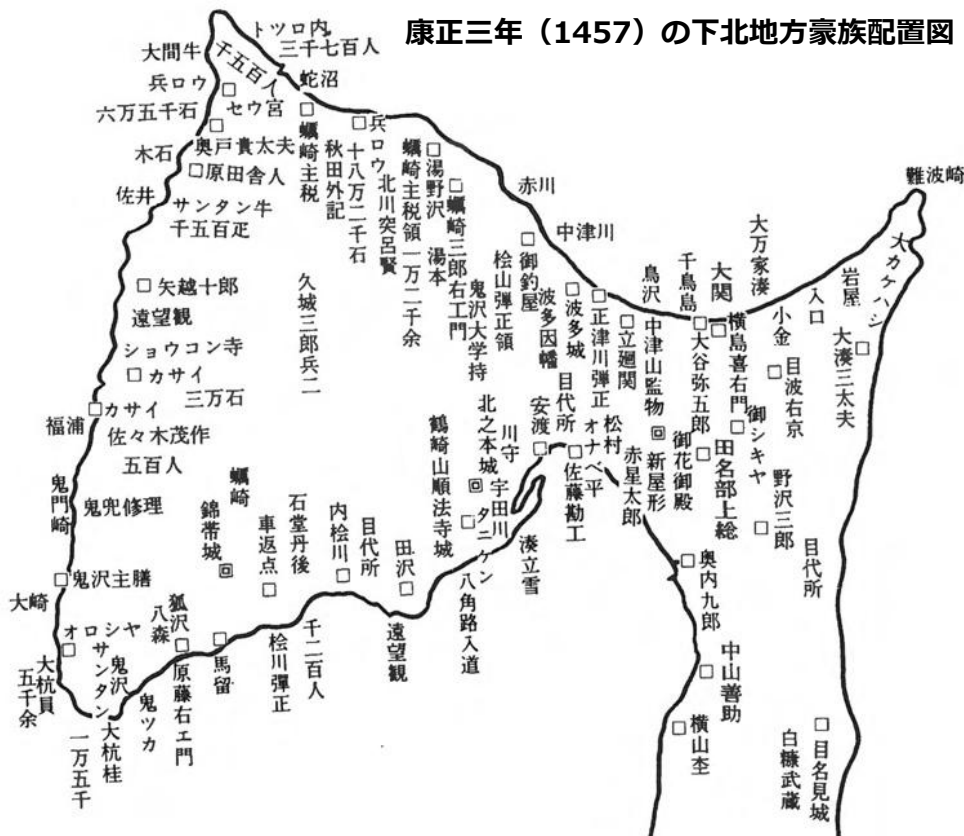
蔵人は戸沢、目名見(白糠)などの山を掘らせ、前後38カ所の鉾山を開いたので、異国間は唐をはじめとする外国船の出入も盛んで北部は大いに賑わった。

老いの身の宗尹王は蔵人を養子にして政事を委任し、やがて蔵人は6代北部王となる。時に宝徳2年(1450)正月三日。

蔵人はそれから6年目に、下北半島全域を舞台に「蠣崎の乱」を起こすのである。南朝の回復を図るとして起こした蔵人の反乱で、康正2年(1456)から翌3年の春にかけ北州、韃靼から兵や兵器、軍馬を入れての戦いであった。

森勇男著「下北伝説の旅」より

康正三年(1457)の下北地方豪族配置図



錦帯城主蠣崎蔵人供養塔

この地図は、むつ市旧大畑町の笹沢善八(魯羊)が昭和11年8月に刊行した『東通村誌』に載っていたものを現在の地図に合わせて書き直したものである。蠣崎蔵人信純の居城、錦帯城(きんたいじょう)、北部王家の居城、順法寺城(城ヶ沢)新谷平(田名部)の新屋形、御花御殿、その他下北諸豪族や土豪の配置状況を書いた誠に貴重な地図である。